

Title	文祿元年の日本耶穌會目録
Sub Title	
Author	土井, 忠生(Doi, Tadao)
Publisher	三田史学会
Publication year	1940
Jtitle	史学 Vol.19, No.3 (1940. 12) ,p.141(521)- 168(548)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19401200-0141

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

文祿元年の日本耶蘇會目錄

土井忠生

大英博物館藏 W. Marsden 寄贈日本耶蘇會關係古文書集 (Papers relating to the Jesuit Mission in Japan) の中の一冊、増加寫本九八六〇番の最初に、

〔一五〕九二年十一月に本會が日本副管區内に於いて有する教舎及び駐在所の目錄、並に其處に居住せるバアデレ及びビルマンの名簿。(Rol das casas e residencias que tem a comp^a na Vice provincia de Japão neste mez de novembro do anno de 92. cõ os nomes dos p^{es} e Irmãos q^{ue} nellas residem) といふ標題の文書が收めてある。雁皮紙三枚を重ねて横折にし、六丁とし、その紙面の大きさは、横二一糎、縦二七・九糎ある。その各面に内框を施し、その大きさを第一面で計ると、横一三・二糎、縦一九・七糎あり、他の面も殆ど同じである。

右の標題を第一面の中央上段に五行に記し、續いて次に示すやうな目錄の本文が始まる。各人の初に加へられた照合の記號十は框内に、番號はその外に書かれてゐる。今譯出するに當つて、人名は原本に

従つて頭文字に小字を用ゐたのもそのまゝとし、略記したものはその全形を括弧の内に註記して示す。日本の地名人名をローマ字に寫したのに長音記號が全然附してないのは、耶蘇會の文書としては珍しい例である。原寫本ではあるが日本内地での作製でないからでもあらう。多くは假に漢字を宛てて置いたが、宛て難い場合には假名でローマ字綴通りの發音を示すに止めた。なほ P. は Padre 即ち伴天連であり、Jr. は Irmão 即ち伊留滿であつて、一々は註しない。

媽港 (Machao) 市なる神の母 (Madre de Deos) の教舍

- 1 + P. Alexandro ualiganano / 伊太利人、巡察使。
- 2 + P. Luis froez / 葡萄牙人、パアデレ巡察使の隨伴、顧問、日本語を甚だよく解す。
- 3 + P. Duarte de sande / 葡萄牙人、舍長、顧問、支那語を少しく解す。
- 4 + P. Francisco laguna / 西班牙人、監事、日本語を甚だよく解し日本語にて講義す。
- 5 + P. Lourenco mexia / 葡萄牙人、説教師、顧問、靈事係長。
- 6 + P. Miguel sorarez / 葡萄牙人、日本副管區の會計係。
- 7 + P. Diogo antunez / 葡萄牙人、説教師、附屬教會の聽罪師。
- 8 + P. fernão miz [Martinez] / 葡萄牙人、聽罪師、教會係長。

9 + P. João soeiro、葡萄牙人。

10 + P. João da Rocha、葡萄牙人。

右二名は神學及び支那語を學習中にて、支那の駐在所に屬しその布教に従ふ。

11 + P. Theodoro manteles、佛蘭西人、病氣せり。

12 + P. Baltasar de torres、西班牙人。

13 + P. Garcia garces、西班牙人、拉丁語の教師。

右三名は日本へ赴く爲に日本語を學びつゝあり。

14 + Jr. oliverio toscanelo、伊太利人、読み書きの教師。

15 + Jr. João gerardino、伊太利人、門衛。

16 + Jr. Christouão ferreira、葡萄牙人、衣服係。

17 + Jr. Amador glz [Gonçalves]、葡萄牙人、調理係。

18 + Jr. Andre douria de malaca

19 + Jr. P. [Paulo] coelho、葡萄牙人。

20 + Jr. Jeronimo correa、印度の生れ。

21 + Jr. francisco carvalho、葡萄牙人。

右四名は倫理神學の課程を修むる學生。」一才

上川 (Chauchen) の駐在所

- 22 + P. Mateus Ricio 伊太利人、支那語を甚だよく解す。
- 23 + P. Francisco Petre 伊太利人、支那語を普通に解す。
- 24 + Jr. Francisco miz [Martinez]
- 25 + Jr. Bastião frz [Fernandez]

右二名は共に葡萄牙人の間に生れ且育てられたれども支那の國民なり。

長崎 (Nagasaki) の慈善院 (Misericordia) の教舎

- 26 + P. Antonio Lopez、葡萄牙人、舎長、副管區長の顧問、日本語をよく解し、日本語にて説教す。
- 27 + P. João de crasto、葡萄牙人、會計係、日本語を少しく解す。
- 28 + P. Damião marim、ブレンシヤ人、日本語の懺悔を聽く。
- 29 + P. Antonio cordeiro、葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。
- 30 + Jr. Ambrosio frz [Fernandez]、葡萄牙人、屋舎係、日本語をよく解す。

31 + Jr. sungui [杉] gomes 日本人、日本語以外は解せず。

32 + Jr. yofu [Yōfō やんぱん] Paulo 日本人、日本語以外は解せず。(1)

長崎 (Nagasaki) 近郊なる全聖者 (todos os santos) の敎舎

33 + P. Pero gomez 一 西班牙人、副管區長、日本語を全く解せず。

34 + P. Francisco Pasio 一 伊太利人、副管區長の隨伴、建言員、顧問、日本語を甚だよく解す。

35 + P. Pero da cruz 一 西班牙人、神學を講ず、日本語を普通に解す。

36 + P. Pero Paulo 一 伊太利人。

37 + Jr. João Roiz [Rodriguez] 一 葡萄牙人。(2)

38 + Jr. Mateus de couros 一 葡萄牙人。

右三名はすべて日本語をよく解して、それにて説教し、又書くに足れり。又神學を學びつゝあり。

39 + Jr. Gaspar de parua 一 葡萄牙人、屋舎係、日本語を少しく解す。

40 + Jr. Miqui (三木) Paulo 日本人、學生にして説教師、拉丁語を少しく學びたり。一ウ

古賀 (Conça) の駐在所

41 + P. João baptista 西班牙人、日本語の懺悔を聴く。

42 + Jr. Same (佐目) Luis 日本人、日本語以外は解せず。

神浦 (Conura) の駐在所

43 + P. Julio piani 伊太利人、日本語の懺悔を聴く。

44 + Jr. Sadamaçcu (定松) gaspar 日本人、日本語以外は解せず。

長崎 (Nagasaqui) の近郊なる時津 (Toquicçu) の駐在所

45 + P. Bastião gliz [Gonçalvez] 葡萄牙人、日本語を普通に解す。

平戸 (Firando) の駐在所

46 + P. Joseph fornalete 伊太利人、日本語をよく解す。

47 + Jr. Bungo (豊後) の Simion 日本人、日本語以外は解せず。

以上の四駐在所は長崎の教會及びその舎長の支配に屬す。長崎なるパアレ達は彼等の間に四十五の教會と三萬人以上の吉利支丹教徒を擔當せり。その外に、平戸 (Hirando) の十七の教會と三千五百の吉利支丹、五島 (Goto) の二千の吉利支丹、肥前 (Figen) 筑前 (Chikusen) 筑後 (Chicungo) の國々に散在せる二千の吉利支丹を擔當せり。

坂口 (Sacaguchi) なる大村 (Omura) の教會

- 48 + P. Afonso de Lucena 葡萄牙人、舎長、日本語をよく解す。
- 49 + P. Balesar Lopez 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。
- 50 + Jr. João de Torres 日本人、説教師、葡萄牙語をよく解す。(3)
- 51 + Jr. Francisco Friz [Fernandez] 葡萄牙人、屋舎係、日本語をよく解す。
- 52 + Jr. Yquigunqui (生月) Toma 日本人、調理係、葡萄牙語も解す。
- 53 + Jr. Gonoy (五井) Paulo 日本人、納室係、日本語以外は解せず。
- 54 + Jr. Adam 日本人、老年にして病めり、日本語以外は解せず。二オ

久利 (Chii) の駐在所

- 55 + P. João Roiz [Rodriguez] 葡萄牙人、日本語を甚だよく解す。(4)
56 + Jr. Yamanguchi (山口) Nicolao 日本人、日本語以外は解せず。

彼杵 (sonagui) の駐在所

- 57 + P. Manoel borahio 葡萄牙人、日本語の聽罪師。
58 + Jr. Ganzusa (加津佐) Miguel 日本人、日本語以外は解せず。

以上二つの駐在所は大村 (Yonura) の教舎及び舎長に屬す。大村のバアデレ達は彼等の間に三十四の教會と約四千人の吉利支丹教徒を擔當せり。

天草 (Amagusa) の學林と修練院

- 59 + P. Francisco caldeiron 西班牙人、學林長、顧問、日本語を普通に解し、日本語の懺悔を聽く。
60 + P. Diogo de misquita 葡萄牙人、監事、顧問、日本語を甚だよく解し、日本語にて説教す。
61 + P. Celso Cofalonerio 伊太利人、修練士の教師、日本語を甚だよく解し、日本語にて説教す、靈事係長、顧問。

- 62 + P. Alonso gl [Gonçalves] 西班牙人、日本語の懺悔を聽く。

63 + P. Marcos ferrario 伊太利人、日本語の懺悔を聴く。

右二名及びその他學林所屬のペアデレ達は彼等の間にて三十五の教會と一萬人以上の吉利支丹教徒を擔當せり。

64 + P. Nicolao de Aulla 西班牙人、拉丁語第一級の教師、日本語を普通に解す。

65 + P. Manoel barrete 葡萄牙人、拉丁語第二級の教師、日本語をよく解し、日本語にて説教す。

66 + Jr. Francisco piz [Pirez] 葡萄牙人、副監事、日本語を普通に解す。

67 + Jr. Gaspar carvalho 葡萄牙人、日本語を普通に解す。

68 + Jr. fr. [Francisco] Luis 葡萄牙人、日本語を將に學ばんとす。

69 + Jr. Phelipe gomez 葡萄牙人、日本語を普通に解す。

70 + Jr. francisco douria マラツカ生れ、日本語を甚だよく解す。

71 + Jr. Ambrosio de barros 印度生れ、日本語を甚だよく解す。

以上六名はすべて倫理神學の課程を修めつゝあり。「二ツ

72 + Jr. Casaria Julião 日本人。

73 + Jr. foriye (堀江) lionardo 日本人。

74 + Jr. Sungui (杉) tome 日本人。

75 + Jr. Yxinda (石田) Amador 日本人。

76 + Jr. Nixi (西) Romão 日本人。

以上五名は第一級の拉丁語學生。

77 + Jr. Moriana (盛山) Miguel 日本人。

78 + Jr. Tocunaru (徳丸) mateus 日本人。

79 + Jr. Cusano (草野) Andre 日本人。

80 + Jr. Itto (伊東) mancio 日本人。

81 + Jr. Casaria Justo 日本人。

82 + Jr. Sanga (佐賀) matias 日本人。

83 + Jr. Ychiqu (市來) Miguel 日本人。

84 + Jr. Nacauo (中尾) Matias 日本人。

85 + Jr. Itto (伊東) Justo 日本人。

以上九名はすべて第一級の拉丁語を學びつゝあり。

86 + Jr. Chinjua (千々岩) miguel 日本人。

87 + Jr. Nacaura (中浦) Julião 日本人。

- 88 + Jr.^o Nāgaura (長浦) nicolāo 日本人。
- 89 + Jr.^o Quimura (木村) miguel 日本人。
- 90 + Jr.^o nixi (西) francisco 日本人。
- 91 + Jr.^o Yearuga (斑鳩) maximo 日本人。
- 92 + Jr.^o Macara (真柄) francisco 日本人。
- 93 + Jr.^o Tanabe (田邊) hiam 日本人。

以上八名はすべて第二級の拉丁語學生なり。

- 94 + Jr.^o Vngnio (ぶんぎょ) fabiam 日本人、拉丁語を少しく解す。(3)
- 95 + Jr.^o Tacay (高井) Cosme 日本人、日本語以外は解せず。

右二名は日本語の教師にして、日本語を教授せり。

- 96 + Jr.^o fara (原) Martinho 日本人。
- 97 Jr. fando (平戸) Thomas 日本人。
- 98 + Jr.^o Conga (古賀) Marino 日本人。
- 99 + Jr.^o Nagasagui (長崎) luis 日本人。
- 100 + Jr.^o fiunga (日向) francisco 日本人。

101 + Jr. Mizuguchi (水口) Agostinho 日本人。

102 + Jr. yō (伊豫) Melchior 日本人。

103 + Jr. firando (平戸) Bastião 日本人。

以上八名は既に拉丁語を學びて、現在日本の文字及び書物を學びつゝあり。三才

104 + Jr. Ariye (有家) simon 日本人、日本語以外は解せず。

105 + Jr. Maçcura (松浦) Andre 日本人、日本語以外は解せず。

右二名は、パアレ達と共に田舎へ赴けり。

106 + Jr. João baptista 伊太利人、我々の文字の印刷係、日本語を極めて僅かに解す。

107 + Jr. João bernardes 葡萄牙人、門衛、日本語をよく解す。

108 + Jr. Pedro 日本人、日本の文字の印刷係、日本語以外は解せず。

志岐 (Xiqui) の駐在所

109 + P. Pero more João 西班牙人、日本語をよく解し、日本語にて説教す。

110 + Jr. Bertolameu redondo マジヨルカ人、屋舎係、日本語を普通に解す。

111 + Jr. Joam Nicolao 伊太利人、倫理神學の課程を卒へ、繪畫を教授す。

112 + Jr. Ocuchimochi (土持) Heitor 日本人、説教師補助、日本語以外は解せず。

113 + Jr. Votano (大多尾) mancio 日本人。

114 + Jr. Mancio Joao 日本人。

右二名は繪畫を學べり、日本語以外は解せず。

栖本 (Sumoto) の駐在所

115 + P. Antonio alz [Alvarez] 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。

116 + Jr. Kinga (志賀) Aleixo 日本人、日本語以外は解せず。

神津浦 (Conzura) の駐在所

117 + P. Alvaro dias 印度の生れ、日本語を甚だよく解し、日本語にて説教す。

118 + Jr. firata (平田) iorge 日本人、日本語以外は解せず。

大矢野 (Oyano) の駐在所

119 + P. Balesar Lopez 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。

120 + Jr. *facata* (博多) *giao* 日本人、日本語以外は解せず。

以上四駐在所はすべて學林長に屬し、學林長は二十五の教會とその下にある二萬三千人の吉利支丹教徒を擔當せり。その外に肥後(*Fingoo*)の國に二千人ありて、その方は大矢野(*Oyano*)の**パアデレ**學林長を援助せり。二三ウ

有馬 (*Arima*) の教舎

121 + P. *Belchior de moura* 西班牙人、舎長、日本語をよく解す。

122 + P. *Gregorio de cespedes* 西班牙人、日本語の懺悔を聽き、日本語をよく解す。

123 + P. *Joam francisco* 伊太利人、日本語の懺悔を聽く。

124 + Jr. *Diogo pereira* 印度の生れ、屋舎係、日本語をよく解す。

125 + Jr. *Tamura* (田村) *Romão* 日本人、日本語以外は解せず。

加津佐 (*Canzuca*) の駐在所

126 + P. *Antonio francisco* 西班牙人、日本語の懺悔を聽く。

127 + Jr. *guilherme* 葡萄牙人、日本語を甚だよく解す。

128 + Jr. Tomunanga (朝永) Cosmo 日本人、日本語と僅かの葡萄牙語以外は解せず。

129 + Jr. Afonso 日本人、日本語以外は解せざりしが、發狂して啞者となれり。

千々岩 (Chinjua) の駐在所

130 + P. Goncalo Rebello 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽き、日本語をよく解す。

131 + Jr. Cundo (工藤) Paulo 日本人、日本語以外は解せず。

島原 (Ximobara) の駐在所

132 + P. Ant. frz (Antonio Fernandez) 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。

133 + Jr. Roque 日本人、日本語以外は解せず。

(この駐在所の條は框外に補記せり)

有家 (Ative) の駐在所

134 + P. Rui barreto 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。

135 + Jr. Yama (山) João 日本人、日本語以外は解せず。

以上四駐在所はすべて有馬の教舎及びその舎長に屬し、これら駐在所及び有馬教舎のパアデ
レ達は四十五の教會と七萬五千人に近き教徒を擔當せり。

八良尾 (Fachiro) の神學校

136 + P. Pero Ramon、西班牙人、校長、日本語を解し、それにて説教し、日本文を綴ること甚だ巧み
なり。(6)

137 + P. João de milão 印度の生れ、監事、日本語をよく解す。

138 + P. Francisco Roiz (Rodriguez)、葡萄牙人、日本語の懺悔を聽き、日本語にて説教す。

139 + Jr. Domingos diaz、葡萄牙人、屋舎係、日本語をよく解す。〔四オ

140 + Jr. Baltasar correa、葡萄牙人、神學校生徒の係、日本語を少しく解す。

141 + Jr. Miguel colago 日本の生れ、第一級の教師、日本語を甚だよく解す。

142 + Jr. Jacome de nabaes 印度の生れ、第二級の教師、日本語を甚だよく解す。

143 + Jr. Tacuxima (度島) João 日本人、調理係、日本語以外は解せず。

144 + Jr. Tocumari (徳丸) Hão 日本人、日本語以外は解せず。

145 + Jr. Qui. mura (本村) toma 日本人、日本語以外は解せず。

神學校のペアデレ達は三つの教會と三千人に近き教徒を擔當せり。

次の者は豊後 (Bungo) 駐在所への派遣員なり。

146 + P. Christouão moreira 葡萄牙人、日本語の懺悔を聽く。

147 + P. Gregorio fulvio 伊太利人、日本語の懺悔を聽く。

148 + Jr. fanciao liao 日本人、日本語以外は解せず。

豊後にては迫害の下に置かれたる教徒の數二萬足らずありと雖も、ペアデレ達は潛伏せるが如き状態にあれば、一の教會もなし。尙右の外に豊後の國內と山口 (yamaguchi) の國內とは二千の教徒あり。

都 (Miaco) の市中にあるもの

149 + P. Organino 伊太利人、日本語の懺悔を聽き、日本語をよく解す。

150 + P. francisco percz 日本語を甚だよく解し、日本語にて説教す。

151 + Jr. Vicente 日本人、日本語以外は解せざれども、日本の文學に關しては他の何れのイルマンよりも勝れたり。(?)

152 + Jr. Amacusa (天草) Paulo 日本人、日本語以外は解せず。

153 + Jr. Mori (森) Jiao 日本人、日本語には精通せるもそれ以外の國語は解せず。

都の地方にては諸小國にて迫害下にある吉利支丹一萬五千人内外に達すと雖も、教會は一もなく、パアデレ達は潜伏せるが如き状態にあり。

O154 + P. Gil da mata 羅馬への代表となりたり。日本語の懺悔を聽く。

この日本副管区内に於ける主要教會は七つ、駐在所は十八を數へ、それら全部にて二百七の教會を擔當せり。そこに住するパアデレ及びイルマンは總數百五十四名に達す。その中にて日本に屬する者は、現在パアデレ巡察使に伴つて支那に居れども日本へ歸任すべき者を含めて百三十六名にして、支那布教區域にある媽港教會の管下に屬する者は十八名なり。「四オ

日本の教會に居住せる同宿その他勤務に従ふ者の目錄

日本にて同宿 (dogicos) と稱するは、剃髮せる大人又は小人にして、教會に於ける勤務に従ひ、俗世間との關係を絶てる者なり。その中の或る者は宗門に入り又は宣教師とならんが爲に勉學し、又或る者

は日本にては教會のこの類の剃髮者にあらざれば爲し得ざる種々の職務、例へば納室係、門衛、茶の湯者 (hano, uxa)、傳言を齎し又は受け來る役をなし、ミサ、埋葬、洗禮その他教會の儀式を助くる役をなし、またパアレや彼等の間にて知られたる者に伴ひて吉利支丹と教義問答し、説教し、訓戒する事をも助く。かくてこの同宿は日本にて尊敬を受くる者なり。又パアレやイルマンとは異なれども、教會内の者として認められ、法服を着す。又宣教師にあらざる事は皆知れども、宣教師たる者のなす職務を執り、或は又その職務の上にて宣教師を助くる者なり。一部の者は神學校に在る者と同じく拉丁語の學習に従ひ、その中より我等のイルマンとなる者も出づ。又一部の者は多くの教舎及び駐在所に分宿して上記の如き同宿としての職務に従へり。現在日本に居る者の數は次の如し。

神學校の教舎に九十二名居たれども、關白殿 (Quambacundono) 十 (Ximo) の地方へ下られたるを以て數ヶ所に分つを要したり。⑧

八良尾 (fachirao) に現在五十名あり。……………五〇

長崎 (Nagasaki) の教舎に十名あり。……………一〇

全聖者の教舎に六名あり。……………六

古賀 (Conga) 神浦 (Conura) 時津 (Toquigun) 及び平戸 (Firando) の四駐在所に各三名宛にて

十二名あり。……………一二

大村 (Vomura) の教舎に十名あり。……………一〇

久利 (Curi) 彼杵 (sonoeui) の駐在所に六名あり。……………六

天草 (Amacusa) の學林に二十四名あり。……………二四

志岐 (Xigui) に十八名あり。……………一八

その他栖本 (Somoto) 神津浦 (Conzura) 大矢野 (Oyano) の三駐在所に九名あり。……………九

有馬 (Arima) の教舎に十五名。……………一五

加津佐 (Canzuga) 千々岩 (Chinjua) 島原 (Ximobara) 及び有家 (Ariye) の四駐在所に十二名。……………一二

豊後 (Bungo) 都 (Miacó) の駐在所にある者とパアデレ巡察使と共に支那へ赴ける者とを合して十名。……………一〇

全部にて同宿は百八十名となる。更に上記の教舎等に於いて勤務せる若者、その他教會の仕事に携はれる種々の剃髮者は、同宿パアデレ並にイルマンよりも遙かに多くして、現在本會が日本にて上記の教會及び教會に分屬せしめ、その負擔によりて養へる俗人は六百七十人に達す。

關白殿 (Quambacundono) の天下を治め始めたる時以來、戰爭により、又我等に加へられたる迫害により、日本に於いて破壊せられたる主要教舎、駐在所及

び教會の目錄 ⑨

都 (Miaco) の地方にて最初に起りたる戦争及び動亂によりて破壊消滅せるもの。

安土 (Anzuche) 巨大にして主要なる學林式教舎。

美濃 (Mino) の駐在所。

若江 (Vacai) の駐在所。こゝは領主禁じたり。

岡山 (OcaYama) のもの。

三箇 (Sanga) のもの。

八尾 (Yano) のもの。

やをしんがた (Yanoxingata) のもの。

たうすけ (Tausque) の地の主要教舎。

別に下 (Ximo) にて戦の爲に六つの教會破壊せられたり。

〔一五〕八七年以後迫害の爲に日本にて破壊せられたる教舎及び教會の目錄 ⑩

都 (Miaco) の地方にある諸國に於けるもの。

都 (Miaco) の學林式主要教舎並にその下にありし二つの教會。……………二

大阪 (Vozaca) の學林式主要教舎並にその教會。……………一

並に教會四十四。……………四四

〔五ウ

堺 (Sakai) の學林式主要教舎並にその教會。……………

明石 (Acaxi) の學林式主要教舎並に一つの教會。……………

たうすき (Tausuqui) に在りし小駐在所並に二つの教會。……………

山口 (Yamanguchi) と稱せらるゝ中國 (Chungoku) の諸國に於けるもの。

山口 (Amanguche) の主要教舎並にそこにありし學林及び二つの教會。……………

下關 (Ximonoxequi) の駐在所並に一つの教會。……………

伊豫 (Iyo) の駐在所並に一つの教會。……………

豊後 (Bungo) の國に於けるもの。

府内 (Funai) の學林。

臼杵 (Usuqui) の修練院。

津久見 (Cenumi) の駐在所。

志賀 (Xinga) の駐在所。

妙見 (Meoquen) の駐在所。

由布 (Yyu) の駐在所。

下 (Ximo) の地方に於けるもの。

並に二十一の教會。……………二二

平戸 (Firando) の駐在所並に一つの教會……………	一六〇
神浦 (Onura) の駐在所並に十四の教會……………	一四
時津 (Toquicu) の駐在所並に十五の教會……………	一五
久利 (Cui) の駐在所並に十三の教會……………	一三
本渡 (Fondo) の駐在所並に十八の教會……………	一八

最後に極めて重要な長崎 (Nagasaki) の教會は二つの教會と共に破壊せられたり。……二

關白殿 (Quambacundono) の時、すべて迫害以前に破壊せられたるものは主要教舎一つ、駐在所三つ並に教會五十、迫害以後のものは主要教舎七つ、駐在所十三並に教會九十六にして、總計すれば主要教舎八つ、駐在所十六並に教會百四十六に及ぶ。
Alex [Alexandro]

印度及び日本地方の耶蘇會巡察使たる予 Alex Valignano は、この支那及び日本の地方を巡察し、會のペアデレ達同宿その他日本の教會の費用にて生活せる者の數、並に現在日本に於いて我々の有する教舎駐在所及び教會の數、又すべて日本の總司配者たる關白殿 (Quabacundono) の統治する時に破壊せられたるもの、即ち迫害前に彼の行へる戦争及び諸領主の變亂によりて破壊せられ、迫害後に破壊せられたるもの、數、更に又吉利支丹の數を計算したるが、これら各項に就きてこの目錄に書かれたる數は我

々の見出したる所なれば、こゝに證明を與へ、又それが眞實なる事を證し、予の手を以て自署するものなり。支那のこの教會に於いて、本日〔一〕五九三年一月一九日。

Alex. Valig^{no} [Alexandro Valignano] 〔六ウ〕

以上で、この目録は終る。筆蹟は三通りに分れてゐて、初から同宿の目録までが一筆、破壊された敎舍駐在所教會の目録が一筆、その終のアレッツシヤンドロなるサイン以下が一筆をなし、この最後の部分がワリニヤノの自筆に係る。それと同筆で、

此の自署し證明したる目録は予に代りてパアデレ Gil de Mata がその寫本をパアデレ管區長へ提出すべくパアデレ Jeronimo Cotta へ贈るものにして、日本にて得たる所を證するが爲にも、亦如何なる地方にても便宜にして必要なりと思はるゝ所に於いて公表せらるゝが爲にも價值あるべきなり。

といふ趣旨の事を記した一枚の紙が、この名簿を含む文書集の百六枚目に綴込んである。右の名簿の用紙と同質同大でもあるから、恐らくその表紙に當るのであらう。さうして又別筆で、

〔一五〕九四年ローマへ送るべきもの。

と記してあるのが、印度ゴアで管區長の下に届いてから後に加へたものかと思はれるのは、このマースデン文書に通じて見られる書函番號 Ganet. n. 32. がこの紙にも記入してあるからである。

次に職名に用ゐた譯語と原語との對照表を掲げて置く。

巡察使	Visitador
管區長	Provincial
副管區長	Vice Provincial
隨伴	Companheiro
學林長、舍長、校長	Reitor
監事	Ministro
副監事	Soto ministro
顧問	Consultor
建言員	Admonitor
會計係、代理者	Procurador
靈事係長(指導靈父)	Profeito das cousas spirituais
教會係長	Profeito da Igreja
聽罪師	Confessor
說教師	Pregator
納室係	Sam Christão

屋舎係 Ter cuidado com a caza

印刷係 Impressor

門 衛 Porteiro

衣服係 Ropero

調理係 Dispenseiro

この名簿は各人の語學力を報告した點が特に注意されるのであつて、特に外人の日本語理解の程度は可成り細かく分け、それに關聯する職務も併せ示してあるので、次にその程度の低いものから順次に擧げて見よう。

日本語を極めて僅かに解す (sabe mui pouco Japam) 一名

日本語を少しく解す (sabe alguma cousa da lingua de Japão) 三名

日本語を普通に解す (sabe medioceremente a lingua) 七名

日本語の懺悔を聽く (confessa na lingua de Japão, 1.confessor na lingua de Japão) 十七名

日本語の懺悔を聽き日本語を普通に解す (confessa e sabe medioceremente a lingua) 一名

日本語をよく解す (sabe bem Japam, 1.a lingua) 八名

日本語の懺悔を聽き日本語をよく解す (confessa e sabe bem a lingua) 三名

日本語の懺悔を聴き日本語にて説教す (confessa e prega na lingua)

一名

日本語をよく解し日本語にて説教す (sabe bem e prega na lingua)

三名

日本語を甚だよく解す (sabe muito bem a lingua)

八名

日本語を甚だよく解し日本語にて説教す (sabe muito bem e prega na lingua)

四名

日本語を甚だよく解しそれにて説教し又書くに足る (sabe mui bem a lingua pera pregar e

escreuer nella)

三名

日本語を甚だよく解し日本語にて講義す (sabe muito bem Japão e le na lingua)

一名

日本語を解しそれにて説教し日本文を綴ること甚だ巧みなり (sabe e prega, e compoem

muito bem na lingua de Japan)

一名

註(1) やうほう(養方)軒。サントスの御作業の譯者。

(2) João Rodriguez Tçydzu (通事) 日本文典の著者。

(3) 葡萄牙人で、日本語をよく解する者とすべとをこの名簿で誤したのである。Die Geschichte Japans (1549—1578) von

P. Luis Frois, S. J. nach der Handschrift der Ajudabibliothek in Lissabon übersetzt und kommentiert von G.

Schurhammer und E. A. Voretzsch. S. 70 Anm. 参照。

(4) João Rodriguez Jirão. 日本耶蘇會年報の筆者。

(5) 天草版平家物語の口譯者、不干齋 Vngnio は、うんぎよ又はうんぎやう或は又うんぎやうの何れかであらうが、判然とし

文祿元年の日本耶蘇會目錄(土井)

(五七)

一六七

ない。

- (6) 天草版ヒデスの導師の譯者。
- (7) やうほう軒パウロの子、サントスの御作業の譯者。
- (8) 文祿元年四月即ち一五九二年六月に秀吉が肥前名護屋に下つたので、學林も天草に移した。
- (9) 天正十年、一五八二年以後。
- (10) 天正十五年六月十九日秀吉博多で宣教師追放令を出す。